

## 研修報告書 No 25

研修施設：梶原町立国保梶原病院

津野町立国保杉ノ川診療所

聖マリアンナ医科大学 研修医

四国を訪れたことのなかった私は、地域医療で高知県での研修があることを知り、申し込みました。ところが、私が研修させていただいた梶原病院は高知県内でも特に地域医療を行っている代表的な病院で、地域医療を学ぶに適した場所だったと振り返ります。高知県内の研修医も地域医療研修に選ぶ病院のひとつである理由が、よくわかります。

梶原病院は、車で高知市・松山市どちらにも同じ時間で移動できる高知県中西部の県境に近いところに位置しています。総人口 4000 人弱の人々はいくつかの部落毎で生活しており、梶原町の基幹病院として機能しています。そして、病院内には保健師や町役場の方がおられる支援センターもあることが特色のひとつです。たとえば、ある地区は、地図上での直線距離は短くても一車線しかないような山道が大半を占めており片道一時間弱かかるような地区からこられる患者さんもいます。医師・コメディカルスタッフ、支援センターの皆さんはたとえば一人が入院をしたとするとその患者さんの状態、家族環境・住宅環境等の情報をスタッフ全員で共有します。遠方になる家族と一緒に泊まれるような病院整備、病状等で新しく介護申請や環境改善が必要であればケアプラン会議を多職種で行い、介護サービスの介入や家屋整備をした後、安心して在宅へ帰れる環境整備を行っています。在宅・外来通院の場合でも、患者さんの家族の情報を診察中に聞いていたり、地区担当の保健師と意見交換を行って、生の情報が病院を離れることのできない医師・看護師の耳へ届き一歩進んだ医療行政介入が行われていました。人口 4000 人に保健師 7 人はとても恵まれた環境であるようで、それも功を奏している大きな理由だと思います。実際研修の一環で、病院を離れて保健師に同行し、地区の保健事業に参加することで、町全体を皆で支えている現場を目の当たりにすることができました。さまざまな職種の方と話す機会をもてたことで、より医師の仕事や提供・必要な情報が理解できたような気がします。

基幹病院といっても、週に一度の整形外科・眼科の医師の外来以外は内科医師が対応されています。地域の診療所も内科医師一人で対応されていました。救急研修中に行ったような骨折、咬傷、事故などの外傷処置から多岐にわたる内科疾患を診られ、より専門的治療が必要と判断された患者さんを専門病院へ転送しています。私は将来、総合内科というよりは専門に進む予定ですが、専門科をいくつもかけもちされている患者さんは都市部ではめずらしいことではありません。もちろん必要な方もたくさんおられますが、病状が落ち着いていたり明らかに専門科の定期通院が必要ではなさそうな患者さんも散見されることは確かです。一方高知県の実情としては、地域の偏在・科の偏在が強く、一医師がカバーすべき範囲が多いことも確かだと聞きました。プライマリーケア、かかりつけ医となって普段の患者さんを診る医師と専門に携わる医師のバランスが取られるようになれば、薬剤の重複処方の減少や待ち時間短縮・医療費削減といった医療側・患者側双方にとって有益となることが多くなるだろうと強く思いました。

日本では機器や人員、科、医療の偏在があることはいなめませんが、自分の仕事に誇りを持ち一生懸命仕事をしているのはどこで医療を行うにも関係ありません。一ヶ月の研修を終え、各地域・医療圏で地域住民のニーズにこたえるような医療を展開できるよう努力していきたいと強く思いました。私を受け入れてくれてくださった皆さん、本当にありがとうございました。